

令和5年度

寄宿舎

『キラリ&ホット』通信

『友達と共に高め合い自立できる生徒』



2023.10.31 10月号 文責：寮務主任 揚張

10月は学校の行事が沢山ある月でした。中学部も高等部も修学旅行があり、「行ってらっしゃい。」「行ってきます。」の声が寄宿舎でも聞こえました。また、高等部は現場実習もありました。「人が少なくなって寂しいね。」などと言いながらも、寄宿舎での活動に取り組みました。舎での生活が卒業後の力となるように、日々支援していきます。

《舎監日誌より》



中学部生徒の利用日と重なる舎監を楽しみにしていました。学部での活動においても積極的に役割をこなす生徒ですが、寄宿舎でも、自分のことや当番の仕事をきちんと行う姿に感動しました。帰り際、迎えに来た保護者に伝えたところ、「家でも手伝いをよくやってくれるようになった。」と、嬉しい報告も受けました。舎での経験が家庭生活でも生きていて、成長を感じました。



舎生からジェンガに誘ってもらい、大笑いしながら遊びました。今はスマホなど個々で遊ぶことが多いのですが、みんなで集まって笑い合うゲームは本当に楽しいな…と昔のスマホが無かった時代を思い出しました。このように、人との関わりが自然に生まれる寄宿舎はとても良い場所だと思いました。

今日の『KANGI Time』では、指導員による革の小物入れ作りを行いました。舎生達は思い思いにスタンプを打ち、オリジナルの革のデザインを仕上げていきました。友達の作ったものを褒めたり、指導員と協力して作ったり、和やかで楽しい雰囲気が流れていました。前回の舎監の時よりも、舎生達が充実しているように感じました。



今日は行事の無い日で、自由時間では「チュニジア vs 日本」のサッカー観戦、UNO、部屋のごみ箱作りなど、それぞれ自由に過ごしているのが新鮮でした。生徒会長兼ボッチャの国体選手の舎生は、隙間時間にボッチャの練習をしていました。学校行事や国体と予定のあるなか、「疲れたよ。」と言いつつも真剣に取り組んでいました。